

群 教 七	F08 - 01
	平27.257集
	生徒指導

# 自他のよさに気づき、 互いに関わり高め合う人間関係づくりの工夫

—ピア・サポート・トレーニングと  
「ピアカード」を活用した認め合い活動を通して—

特別研修員 眞下 理江

## I 研究テーマ設定の理由

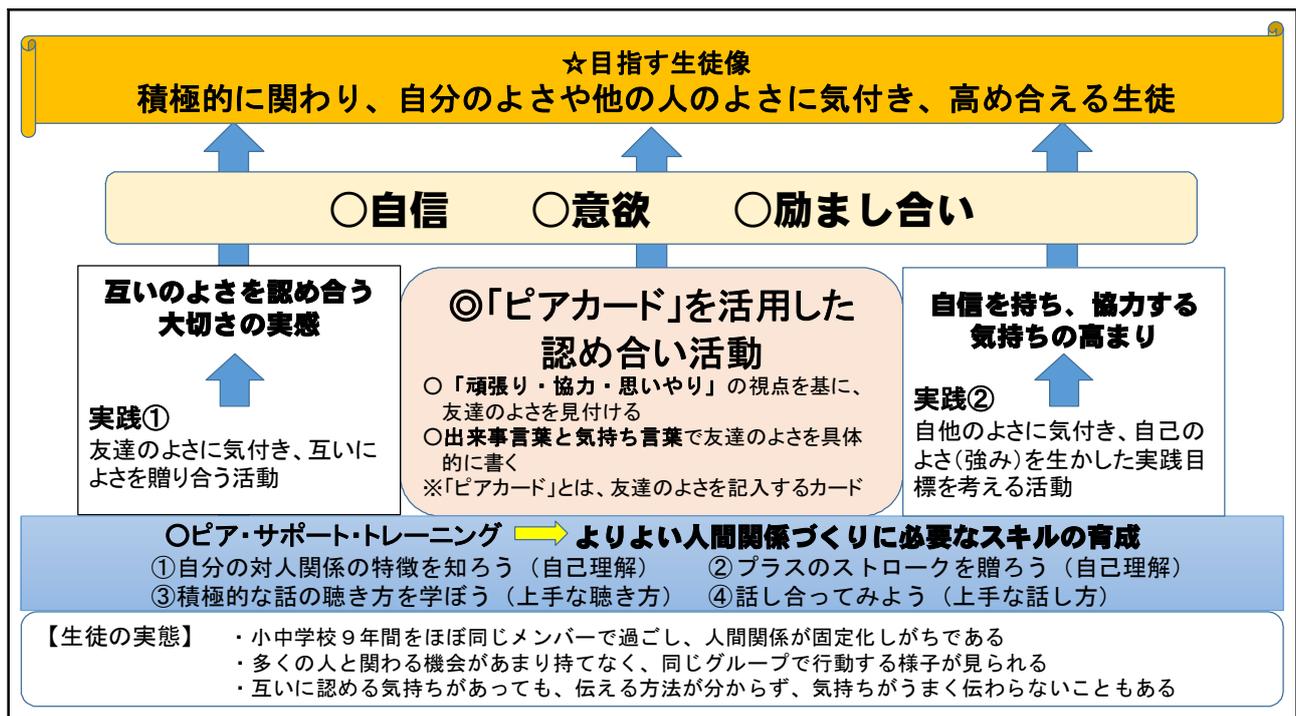
「生徒指導提要」（文部科学省）に、生徒指導の課題として「望ましい人間関係づくり」が挙げられている。また、「平成27年度 学校教育の指針」（群馬県教育委員会）では、「いじめの未然防止に向けた人間関係づくりを進める取組の充実」を学校経営の重点としている。学校生活における人間関係の基盤は学級であり、まずは学級でよりよい人間関係を築いていくことが必要である。

本学区は、小中学校が1校のため、生徒は9年間をほぼ同じメンバーで過ごし、成長していく。4月末に行ったクラスや自分自身について質問したアンケートの結果では、クラスの雰囲気がよく感じている生徒が多いが、「友達が間違えると笑う雰囲気がある」「グループ分けをする時に残ってしまう人がいる」と感じている生徒の回答もあった。また、クラスの問題点として、「グループに分かれている感じがする」「一部のひとしか話さない人がいる」などが挙げられていた。このような状況の中、生徒たちはクラスの中で新たな人間関係をなかなか築けず、同じグループで行動する様子が見られ、生徒同士が表面的なつきあいで済ませてしまう場面が見られた。さらに、相手を認める気持ちがあっても、認めたり認められたりする経験が少ないために、伝える方法が分からず、互いの気持ちがあまく伝わらない場面も見られた。

そこで、よりよい人間関係づくりに必要なスキルをピア・サポート・トレーニングで育成し、身に付けたスキルを基盤に、様々な場面での認め合い活動を取り入れることで、「自他のよさに気づき、互いに関わり高め合う人間関係」が築けると考え、本研究テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

### (1) ピア・サポート・トレーニング

生徒の実態から、自他のよさに気づき、互いに関わり認め合うためには、ピア・サポート・トレーニングでよりよい人間関係づくりに必要なスキルを育成する必要があると考えた。自己理解、聴く練習、上手な話し方などのトレーニングを行うことで、普段一緒に行動をしているグループ以外の友達とも交流を持つ姿が、徐々に見られるようになった。

### (2) 「絆を深めよう ～尾瀬学習～」(第2学年・1学期)

〈実践1における手立て〉

- ① 友達のよさを見付けることができるように、「頑張り・思いやり」を視点として提示すること。
- ② 「ピアカード」に友達のよさを具体的に書けるように、出来事言葉と気持ち言葉で書かせること。
- ③ 互いに認め合うよさを実感できるように、贈られた側の感想を書き、交流させること。

取組のよさを見付ける視点として「頑張り・思いやり」を提示し、記入する内容を「出来事言葉+気持ち言葉」で書くように促したことで、全員の生徒が「ピアカード」に友達のよさを具体的に記入することができた。次の段階として、実践2では行事を通してどんな学級になってほしいか(目指す学級像)を事前に話し合い、生徒の思いの中からよさを探す視点を考えた。

### (3) 「絆を深めよう ～合唱コンクール～」(第2学年・2学期)

〈実践2における手立て〉

- ① 友達のよさを見付けることができるように、「頑張り・協力・思いやり」を視点として提示すること。
- ② 自分に適した実践目標を考えることができるように、自分が考える自分のよさに、ピアカードに書かれた友達が考える自分のよさを参考にし、自己のよさ(強み)を生かすようにすること。

合唱練習を通してどんな学級になってほしいか、目指す学級像を話し合ったところ、「協力」に関する内容が多く出てきたので、よさを見付ける視点を「頑張り・協力・思いやり」の3点とした。ピアカードを贈り合う活動を繰り返し取り入れたことで、三つの視点に着目して互いのよさを具体的に見付け、贈り合うことができた。

自分が考える自分のよさに、友達が考える自分のよさが加わることで改めて自分のよさを捉えることができ、自信を持つことにつながっていった。さらに自分のよさを生かした実践目標を考えたことで、合唱に対する意欲が高まるとともに、互いに協力する気持ちが学級全体でさらに見られるようになった。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- これまでのピア・サポート・トレーニングや行事ごとにピアカードを使って互いのよさを認め合う活動を繰り返し行うことで、普段から友達のよさに着目することができるようになり、行事以外の場面でも関わる姿が見られるようになった。
- 自分自身が考えるよさに他者が考えるよさが加わることで、改めて自分のよさを捉えることができ、それが自信につながり、意欲的に人と関わり活動しようという姿が見られるようになった。
- 普段の生活の中でも、係活動や当番活動での協力や助け合う姿が多く見られるようになり、和やかな雰囲気の中で、生徒一人一人が伸び伸びと活動する様子が見られるようになった。

### 2 課題

- 行事を中心に行った認め合い活動を、さらに日常生活の中で広げていくために、係活動や当番活動、授業の中でも認め合い活動を積極的に行っていくことが必要である。
- 教師が率先して認め、褒め、励ましていくことでよさを見付ける姿勢を示し、子どもたちの人間関係づくりを支援していくことが大切である。

## <授業実践>

### 実践 1

#### 1 題材名 「絆を深めよう ～尾瀬学習～」(第2学年・1学期)

#### 2 本題材及び本時について

本題材では、「尾瀬学校の班活動を通して友達によさに気づき、それを互いに贈り合うことで、よさを認め合う大切さを実感することができること」をねらいとした。よさを見付ける際には、「頑張り・思いやり」を視点として提示したり、出来事と気持ちを併せて書かせたりすることで、友達によさを具体的に見付けることができると考えた。また、贈られた側の感想を記入させ交流することで、互いに認め合うよさを実感できると考えた。

#### 3 授業の実際

活動の流れは、以下のように行った。

導入：尾瀬学校の写真を見て、活動を思い出す。

展開：①「頑張り・思いやり」を視点に、ピアカードに互いのよさを記入し、贈り合う。

②ピアカードをもらった感想を書き、交流する。

振り返り：尾瀬学校の班活動で学んだこと、感じたこと、今後に生かしたいことなどを記入する。

##### (1)ピアカードを記入し、贈り合う

これまでの尾瀬学校に向けての活動や尾瀬学校当日を振り返り、同じ班のメンバーのよさを見付け、ピアカード(図1)に書いて贈り合う活動(図2)を行った。その際、よさを見付ける視点を「頑張り・思いやり」として提示した。

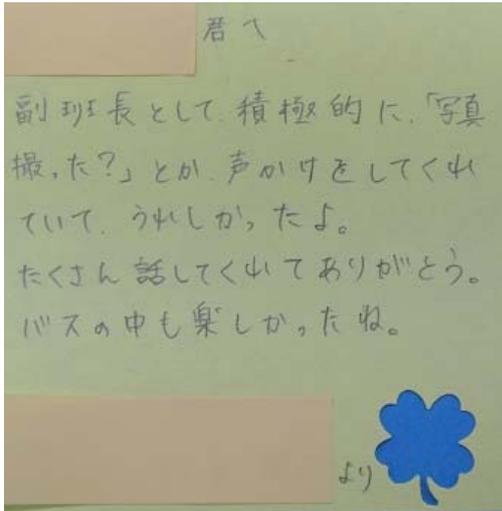


図1 ピアカード



図2 ピアカードを贈り合う様子

##### ピアカードに書かれた友達が考える自分のよさ

- 積極的に話して、みんなを笑わせてくれてありがとう！ガイドさんの言ったことをすぐ覚えていてすごいと思いました。
- 同じ係の人とうまく仕事の分担ができていたね。きっといい写真がとれたと思うよ。
- 班長としてリーダーシップをとって、みんなに声をかけていて、自分の役割をきちんと果たしていてすごいなあと思ったよ。
- 話ができうれしかったです。声をかけてくれて、ありがとう！
- 積極的にみんなに話しかけてくれたから、楽しく尾瀬に行けました。ありがとう！バスの中も楽しかったね。

班のメンバーのよさを探す視点を「頑張り・思いやり」と明確にしたことで、スムーズにピアカードを書くことができていた。また、全員の生徒が出来事言葉と気持ち言葉の両方で、具体的によさを書く

ことができていた。これは、例を出して相手に伝わるカードの書き方を確認した成果だと考えられる。ピアカードの内容については、係についてのことや互いの目標を基にして書く生徒が多いと予想していたが、上記以外にも「興味を持ってガイドさんにたくさん質問して、すごいと思った」「木道で転びそうになったとき、大丈夫と声をかけてもらって、うれしかった」「みんなに声をかけて盛り上げてくれて、ありがとう。とても楽しかった」など、いろいろな面からよさを探ることができていた。

## (2) ピアカードをもらった感想を書き、交流する

贈られたピアカードを読み、思ったことや感じたこと、学んだことを記入した。

ピアカードを読んで、思ったこと・感じたこと・学んだこと
<p>〈自分のよさを認めてもらったうれしさについて記述〉</p> <p>○班長としてちゃんと仕事ができているのか不安だったけど、ピアカードを読んで、自分の仕事ができているんだと安心した。</p> <p>○自分にもいい所があるんだなと思った。自分のいい所を見付けてくれて、とてもうれしかった。尾瀬に行ってもよかったと思った。</p> <p>○みんなからピアカードをもらってうれしかったです。たくさん思いやりを感じました。</p> <p>○みんなから「楽しかったね」「すごかったね」という言葉ももらって、うれしい気持ちになりました。班長としてみんなをまとめられるか不安だったけど、みんな笑顔で行って来られたので、みんなで楽しみながら行くともっと楽しいということを、改めて学ぶことができました。</p> <p>〈よさを認め合う大切さについて記述〉</p> <p>○友達の良い点を知るということは、とても大切なことだと思いました。</p> <p>○友達に良い所を見付けてもらうことは、とても良いことだと思いました。</p> <p>○このピアカードを通じて、みんなとの距離が近くなったような気がします。</p> <p>○ピアカードを通して、他の人のよさ、自分のよさについて考える、良い機会になった。</p>

上記の感想のように、全員が自分のよさを認めてもらえたうれしさについて記述することができた。また、図3のようにグループでピアカードをもらった感想を交流したところ、多くの生徒に笑顔が見られた。しかし、「よさを認め合う大切さ」について記述できていた生徒は少数だった。



図3 ピアカードをもらった感想を交流する様子

## 4 考察

- 事前のピア・サポート・トレーニングで、プラスのストロークを贈ったり、贈られたりする活動を行った。プラスのストロークが仲間を元気付けたり、勇気付けたりできる体験をしたことにより、「ピアカード」を書くことも抵抗なく行うことができた。
- 班のメンバーのよさを探す視点を「頑張り・思いやり」と明確にしたことで、具体的にピアカードを書くことができていた。次回は行事を通して学級がどのようになってほしいかを事前に話し合い、その中からよさを探す視点を考えていきたい。
- ピアカードに書いた気持ちを表す言葉は、「すごい」を使う生徒が多かったので、「すごい」以外にも自分の気持ちが相手に伝わる言葉を考えさせていきたい。
- ピアカードはコピーを教室に掲示したり、学級通信に載せたりして、他の人がもらったピアカードの内容を知ったり、家庭にも活動の様子を知ってもらったりして、友達のよさに気付くことやよさを認め合う大切さを広げていきたい。

## 実践2

### 1 題材名 「絆を深めよう ～合唱コンクール～」(第2学年・2学期)

### 2 本題材及び本時について

本題材では、「合唱練習を通して友達によさに気づき、互いによさを贈り合い、自己のよさ(強み)を生かした実践目標を考えることで、合唱コンクールに向けての意欲を高めること」をねらいとした。よさを見付ける際に、「頑張り・協力・思いやり」を視点として提示することで、友達によさを具体的に見付けることができる考えた。また、互いによさについて贈り合ったピアカードを参考にし、自己のよさ(強み)を生かすことで、自分に適した実践目標を考えることができる考えた。

### 3 授業の実際

#### (1) 導入

合唱の学級目標を基に合唱練習を振り返り、学級のよさ(強み)を4人のグループで話し合った。その後、話し合いの中で出てきた学級のよさ(強み)を短冊黒板に書き、発表した。

各班で出された学級のよさ(強み)
1班:音がとれていて、きれいな声でまとまりがある。
2班:一人一人が心を合わせようと意識しているところ。
3班:アドバイスをし合える。指揮者を見ている。協力し合える。欠点を理解している。
4班:声をかけ合える。練習に積極的に参加できる。みんなが真面目に歌っている。
5班:やる時にしっかりとまとまれるところ。
6班:声が出ていて、一生懸命に明るく歌えている。

また、合唱練習を振り返り、事前にかけておいた自分のよさ(強み)を確認し、生徒に発表させた。

自分のよさ(強み)
<input type="checkbox"/> 声をかけ合って、協力できる。
<input type="checkbox"/> 合唱に勢いをつけるために、大きな声で歌っている。
<input type="checkbox"/> 指揮者の顔をしっかりと見て歌えている。
<input type="checkbox"/> 練習には、毎回できるだけ早く行っている。

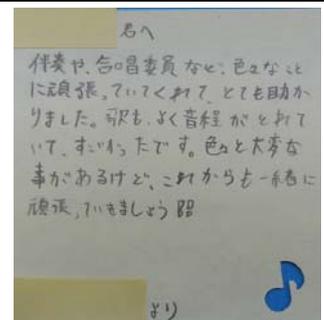
各班で出された学級のよさ(強み)や自分のよさ(強み)から、各自が自分に適した個人目標を持って合唱練習を行い、学級全体として真剣に取り組んでいる様子が見えたと感じた。

#### (2) 展開

##### ①ピアカードを記入し、贈り合う

最高の合唱にするために、これまでの合唱練習において同じパートのメンバーのよさ(強み)を見付け、ピアカードに書いて贈り合う活動を行った。その際、よさを見付ける視点を「頑張り・協力・思いやり」として提示した。

ピアカードに書かれた友達が考える自分のよさ(強み)
<input type="checkbox"/> いつもソプラノをリードしてくれていて、私も歌いやすくなります。積極的に取り組んでいてかっこいいなと思いました。ありがとうございます。
<input type="checkbox"/> いつも音程が正確で、横で歌っていてとても助かります。明るく指揮をしてくれるので、安心して歌えます。
<input type="checkbox"/> 口が開いていて、声も出ていて、音程もばっちり。他にもパート練習の時、プレイヤーやCDの準備をありがとう。合唱コンクール、頑張りようね!
<input type="checkbox"/> 歌い方や並び方について考えて、アドバイスをたくさんくれてありがとう。 <u>これからも頑張り、一緒にアルトを引っ張っていきましょう</u>
<input type="checkbox"/> 音程がとれていて、みんなのことを考えて意見を出してくれてありがとう。これからも頑張りよう!
<input type="checkbox"/> 伴奏や合唱委員など、色々なことを頑張ってくれて、とても助かりました。歌もよく音程がとれてい



てすごかったです。色々大変なことがあるけど、これからも一緒に頑張っていきましょう。

同じパートのメンバーのよさ（強み）を記入する場面では、ピアカードを書くのが5回目ということもあり、どの生徒も出来事言葉と気持ち言葉で具体的に書くことができていた。また、波下線部のように互いに励まし合う記述が見られるようになった。

図4のようにピアカードを渡す場面では、どのグループも和やかな雰囲気、互いに「ありがとう」と言いながら、笑顔で渡す様子が見られた。自分では気付かなかったよさ（強み）を見付けてもらったという生徒が、ほとんどだった。



図4 ピアカードを贈り合う様子

### ②自分のよさ（強み）を生かして、自分にできることを考える

生徒は、学級や自分のよさ（強み）、友達が考える自分のよさ（強み）を生かして、合唱コンクールまでの1週間で最高の合唱にするために、学級のために自分が何ができるか実践目標を考えた。

〈練習開始時の個人目標〉	〈自分のよさ（強み）を生かして考えた実践目標〉
○精一杯声を出し、3年生に負けない合唱にする。	○口を大きく開けて、大きな声で歌う。指揮者をしっかり見て、堂々と歌う。
○自分のパートをしっかり覚え、大きな声できれいに歌い、みんなでそろえる。	○口を大きく開けて声を出し、アドバイスし合う。
○各パートで一つの声に、クラスで一つの声になるように一生懸命歌う。	○女声とのハーモニーを大切にしながら、大きな口で歌う。大きな声だけでなく、強弱を意識して歌う。
○できるだけ練習に参加し、パートで協力して大きな声で堂々と歌う。	○口を大きく開けて声を出して、パートの中だけでなく、クラス全体を引っ張っていけるようにする。

合唱練習の開始時に考えた個人目標と、自分のよさ（強み）を生かして考えた実践目標を比べると、多くの生徒が自分に適したより具体的な目標に変わった。

### (3) 振り返り

最後に、ピアカードをもらった感想と本時を通して気付いたことや学んだことを記入した。

今日の授業を振り返って
○友達が自分のよさをたくさん見付けてくれたのは、うれしかったです。自分のよさや友達が思っていることなどをピアカードを通して知ることができたので、強みを生かして練習していきたいと思います。
○自分がみんなを引っ張っているとは思ってなかったので、少し意外でした。一人一人によさがあることを今日の授業で改めて知ることができました。この一人一人のよさを生かして、自分たちのクラスらしさを出して、合唱コンクールに臨んでいきたいと思っています。
○ピアカードをもらった時、みんなが自分のよさに気付いてくれていることがうれしかったです。渡す時は、相手が照れたり「うれしい」と言ったりしてくれたので、書いてよかったなと思いました。自分たちのよさを改めて理解することができたので、今後の練習にもっと生かしていきたいです。

## 4 考察

- 取組のよさを見付ける視点「頑張り・協力・思いやり」やピアカードに書く内容「出来事言葉+気持ち言葉」の提示をしたことで、具体的に友達のよさを見付け、贈り合うことができていた。
- 合唱コンクール一週間前にピアカードを贈り合うことで、「一緒に頑張っていこう」「一緒に引っ張っていこう」など、互いに励まし高め合おうという内容が見られた。
- 学級のよさ、自分のよさ、友達が考える自分のよさを確認できたことで、意欲的に実践目標を考えることができていた。